

2023.11
45
あき号

ブランコ

の

うさぎ

コロちゃん

シンくん



【開催報告】

令和5年度 第1回 事例検討会
「障害者福祉施設指導専門員とリハビリテーション専門職の連携」

令和5年度 看護職・介護職リハビリテーション ステップアップ研修会
「リハビリテーションの視点を持って活躍できる看護職・介護職養成研修」



【今回の表紙】
ステップアップ研修会を10/2、10/19に
実施しました。詳細はP4～を確認ください。

LINE 公式アカウント

**友だち
募集中**

@513gckqy

主催研修会情報、
活動紹介等の最新情報
を発信します

丹後圏域地域リハ支援センター公式LINE



令和5年度 第1回 事例検討会 「障害者福祉施設指導専門員と リハビリテーション専門職の連携」

日時：令和5年9月21日（木）

16：30～18：00

会場：丹後保健所・WEB

参加者：25名

内容：1) 実践報告



- ・ **難病患者の介入のタイミング**は…
生活に変化が起こった時だけでなく、
変化が起きる以前から必要
- ・ **関わる上で介入のポイント**は…
「本人の自分らしさ」
「関わる人が中立の立ち位置で」
「その人に合わせた先を見据えた介入を」
- ・ 情報共有をする上で、実際に**本人を見て、
本人と対面で話をすることが重要**



「作業所に通う身体障害の方への関わり・支援」

公益財団法人丹後中央病院 理学療法士 平野 裕則 氏



・いろいろな施設や人が連携し面となって
その方たちを支えていく必要がある

・現状、困っている事例ではなくても丹後圏域
地域リハビリテーション支援センターにどんな
些細な事でも相談をしていこう!

「医療・福祉・労働の連携を目指して」

社会福祉法人よさのうみ福祉会 峰山共同作業所 尾上 豊 氏

2) グループワーク

対象者の生活支援と福祉関係者と
リハ職種の協働について
感想の交換や具体的に現在の支援に
ついて困っていること



グループワークの要点

- ・普段支援をしていても支援の方法がよく分からない、けがをさせない見方が分からない。
- ・地域の医療とのつながりが必要だと思った。
- ・訪問相談は今困っていることや重度の心身障害の方のことを相談するイメージだった。
- ・顔をつなぐことは大切、気になったことを気軽に相談できればいい。
- ・リハの視点での目標がなかなか共有できていないが、つながったことで今後共有していける
- ・支援学校のことを知ってもらうことも大事
- ・支援学校では社会に出る前の訓練をしている、そこでもリハセンとつながっていることが大事

参加者の感想

- ・他職種とお話する機会を得て、大変有意義な時間でした。今後は近い存在として自分から連携に動くことができればと思います。
- ・私自身、丹後リハセンの方からお話をきくということがなかったので、大変勉強になりました。現場で支援して下さる支援員という立場ではないですが、途中でお話しがあったように、リハビリ職とその他職種との顔のつながりを作るということはとても大切だと感じました。
- ・ふだんの姿勢など身体障害がない人でも、気軽に相談することができそうに感じました。とても親切に声をかけてくださり、勉強になりました。
- ・相談支援専門員としても、ご本人やご家族はもちろん、もっと現場で直接本人を支援して下さる職員さんへ、こういった資源があることをお伝えしていかないといけないのだと感じました。また、訪問相談を依頼することに対するハードルが今回を機に少し下がりました。
- ・その方の将来どのようになりたいかしっかり聞いた上での支援が必要だと言うことが改めてわかりました。これからの支援にいかしていきたいと思いました。

令和5年度 看護職・介護職リハビリテーションステップアップ研修会 「リハビリテーションの視点を持って活躍できる看護職・介護職養成研修」

日時：令和5年10月2日（月）
時間：10：00～17：00
会場：宮津市・総合教育プラザ
参加者：20名

テーマ「**環境調整**」 講師：今西清香氏
(リハ・ヴィラなぎさ苑 作業療法士)



環境調整のポイントについて学びました

講義のポイント

- ・補助具・自助具・福祉機器など福祉用具の種類を知る
- ・生活を活性化させるための道具の選定
- ・介護者にとって「負担感」を減少させ「したくなる介護」状況を作るための道具の導入

◎起居用具を選ぶポイント

マットレスの固さ 端座位可能→固め 端座位不可能→柔らかめ
ベッドの高さ 安定した座位をとる場合は股関節・膝関節が90° 曲がった姿勢で足底が十分つくように設定する

◎車椅子を調整するポイント

座面 たわみがある場合、たわみを解消できるクッションを利用する
背もたれ 背張りを緩くしてあげるだけで円背の方も座りやすくなり、摂食が行いやすい姿勢となる

福祉用具貸与事業者さんに、会場での福祉用具のご協力やご説明をして頂きました



食事の際に腕を支えられるオーバーテーブルや、足底サポートにより体幹を安定させることができます。その他車椅子・歩行補助具なども紹介がありました。

協力：株式会社 三笑堂 宮津営業所

テーマ「ポジショニング」

講師：松田佳憲氏（丹後中央病院 理学療法士）

「ポジショニングのその前に」ベッドでのポジショニングについて学びました



講義のポイント

- ・ポジショニングの目的を明確に!
- ・褥瘡ができる原因と褥瘡の好発部位
- ・体位変換の方法について
- ・体圧分散の方法について

ポジショニングの目的

- ・床ずれの防止
- ・摂食嚥下機能の維持・促進
- ・呼吸・循環機能の維持・促進
- ・筋緊張の緩和と関節の変形拘縮の防止
- ・安楽でリラックスした姿勢の提供



実技のポイント

実際にポジショニングを行ってみて、

- ①一度離れた場所から見てみることで、ポジショニングができているかを確認する。
- ②クッションを設置する際は、そのクッションが抜けないかどうか確認をする。
- ③介助者が負担のない姿勢で対象者を体位変換する。

参加者の感想

- ・環境調整やポジショニングの基礎的な知識を知ることができて良かった。
- ・車椅子の座面の調整を事業所に帰ってやってみようと思った。
- ・講義だけでなく実施もあり理解し易かった。進行もスムーズだった。
- ・筋緊張、拘縮の強い方へのポジショニングの仕方が知りたかったので少し残念です。
- ・普段自分にはない視点や知識を教えていただいたので今後の参考にさせていただきます。貴重なお時間ありがとうございました。
- ・ポジショニングのその前に・体位変換・目的意識・職場で広めていきたいと思えます。

日時：令和5年10月19日（木）
時間：10：00～17：00
会場：峰山地域公民館



テーマ「摂食・嚥下」

講師：笠井幸子氏（Seat Table 言語聴覚士）

基本的な摂食嚥下のしくみからとろみ体験など実技を交えた講義をして頂きました。



講義のポイント

- ・摂食嚥下の5期モデル、それぞれに起こりうる問題点
- ・誤嚥性肺炎は日本人の死因第6位
- ・誤嚥の起こる要因、誤嚥性肺炎について
- ・現場で行う食事場面でのケア、それ以外の場面でのケアの重要性

福祉用具貸与事業者さんに、会場での福祉用具のご協力やご説明をして頂きました

座面部分とブレーキの連動により転倒防止に優れた歩行器や、トランスファーボード一体型の車椅子、機能性の高い電動式のポータブルトイレなどの福祉用具の紹介・説明をして頂きました。



協力：株式会社 石坪 京丹後店

テーマ「トランスファー」 講師：佐藤一喜氏（丹後中央病院 理学療法士）

基本的な移乗の仕組みや、車いすの使い方、ベッドから車いすへの移乗の実技を交えた講義をして頂きました。



講義のポイント

- ・移乗の手順：座る→座位→立つ→方向転換の繰り返し
- ・立ち上がりの3カ条 ⇒ ①前かがみ ②足を引く ③座面の高さ
- ・方向転換の2カ条 ⇒ ①両者の重心が指示面から外れない ②足の踏み替えに注意
- ・車いすはベッドに対して30°に設置、される側のお尻を車いすの方に少し向ける
- ・介助する際には、手の使い方や介助する立ち位置が重要
- ・動作を行う場合は動く/力を出すタイミングを伝える「声掛け」が必要
- ・「本人の能力」「介助スキル」「環境」などの視点を増やすことが重要
- ・移乗の際に使用する物品の選定も必要



参加者の感想

- ・中々、嚥下の事や、移乗の勉強会と言うのが無く、とても良かったです！ありがとうございました。
- ・移乗方法のコツやとろみ剤など新しい知識を身につけることができてよかった。
- ・とてもためになることばかりでした。
- ・今回も実習があり皆と意見を出しながら行え参考になりました。
- ・摂食・嚥下では、実際に体験してみないとわからない事があるんだと、改めて感じた。利用されている方たちは、今のところ自力摂取できるため見守りで対応しているが、姿勢なども注意しながら見守りをしようと思う。トランスファーは苦手でつい腰に負担がかかってしまう。実技でやった事を実践の場で活かせるよう復習をしたいと思う。

リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島2023

リハケア学会とは

一般演題口述発表 地域連携

- ・一般社団法人 日本リハビリテーション病院・施設協会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会等の6団体が合同で毎年開催している学術集会
- ・全国の病院、診療所、在宅サービス事業所、介護施設、福祉施設、行政機関など多方面から多彩な専門職が参加し、**リハビリテーション・ケアに関する情報交換、情報共有を熱く語り合う場**で、来年度は山梨県で開催予定



日時：令和5年10月26日（木）～27日（金）

会場：広島国際会議場



広島で現地開催されたリハ・ケア学会に参加して、シンポジウム・講演の聴講、演題発表を行いました

一般演題発表：理学療法士 志賀大記氏

公益財団法人丹後中央病院 丹後圏域地域リハビリテーション支援センター

テーマ「丹後圏域におけるリハビリテーション専門職の連携に関する意識調査」

丹後圏域内に従事するリハビリ専門職に対して、リハビリ専門職間の連携についての意識調査を令和4年度に実施し、その調査結果について発表を行いました。

報告のポイント

- ・意識調査の回収率は従事者全体の32.4%と低く、取り組みに参加する割合が少なかった
- ・アンケート結果から中堅世代は外部と関わりが少なく、また書面などの間接的な方法が多い
- ・他事業所と関わる機会に対して、業務として参加希望が多く、顔の見える関係づくりの機会があれば業務時間内・外の差はあるが、全体的に時間の参加希望する声もある

質疑応答での気づき

- ・リハ専門職全体の連携ができると、地域ケアを支援するために、リハからの視点でのサポートがより良い状態で提供できるのではないかと
- ・リハ専門職間の連携の取り組みに参加を促すには、明確なメリットが必要
- ・地域ケア、地域リハへの理解、リハ専門職の役割の理解が得られる必要がある

今後の取り組み

- ・事例検討会「情報交換会」を開催し、丹後圏域の事業所について知る機会を得て、他事業所やスタッフを知ることで顔見知りができる環境の提供を検討
- ・丹後圏域のリハ専門職の求める地域ケア、地域リハについてのニーズを調査し、参加しやすい環境を提供したい

編集後記

今年度初のうさぎのブランコをやっと発行することができました。つい先日、今年度が始まったばかりのように感じますが、気づくともうすでに半分終わっています。この間、上記にあるように丹後での取り組みを全国規模の学会で報告しました。目の前の課題に向かっていくと、とてつもない壁を感じ途方に暮れますが、今回のように一区切りでまとめてみると、少し周りがクリアになってきます。今回発表にいただいたアドバイスを元にさらに丹後の地域リハを推進していけたらと思います。（Y.S）

編集/発行：丹後圏域地域リハビリテーション支援センター(公益財団法人 丹後中央病院)

連絡先：TEL0772-62-8301 FAX0772-62-8302 e-mail tango-rehabili-shien@tangohp.com

「丹後地域リハ」で検索！

